

ご挨拶 & 座右の銘

副病院長・理事・
臨床研修センター長
鳥野 隆博
兼 血液内科主任部長
兼 薬剤管理センター長



「新年明けましておめでとうございます」

数年間、世界の人々を悩ませていた新型コロナウイルスも5類感染症扱いとなり、その脅威から少し解放されてきており、世の中も元に戻りつつあります。しかし、医療機関の役割を果たすべく、当センターでは緩和に対して慎重に対応していき所存でございますので、患者様、ご家族にはこれまで通りのご協力をお願いするとともに、昨年までのご協力に対しまして深く感謝申し上げます。

医学界におきましては、感染予防をしながら学会や講演会が現地開催されるようになってきました。臨床研修センターでは、研修医の技術習得もさることながら学術的教育にも力を入れており、積極的に学会に参加してもらっています。



初心忘るべからず

世阿弥が書いた『花鏡』の言葉であり、本来の意味は、試練に出会った時、どのように試練を乗り越えたか、その経験を忘れてはいけないということです。これまでの経験を忘れず、多くの難題に対峙し、明るい道を開いていきたいと思います。

私事ながら、昨年の5月に近畿血液学地方会を会長として現地開催させて頂きました。当センターからも初期研修医が発表を行い、優秀演題として表彰されました。さらに論文作成にも力を入れており、ほぼ毎年論文発表をもらっていますが、昨年は「竜」の年でありましたが、このように研修医にとっても飛躍した年であり、これらの経験は研修医にとって大きな財産になると思います。今年も、これからの医学を牽引していく若い先生方が多くの経験ができるような実りのある一年となることを祈念いたします。



▲左：優秀演題賞を受賞の藤本医師（研修医）

ご挨拶 & 座右の銘

副病院長・診療支援局長
種村 匡弘
兼 消化器外科主任部長
がん治療センター長
がん相談支援センター長



「新年あけましておめでとうございます」

令和2年（2020年）初頭から翻弄され続けてきた新型コロナウイルス感染症は、令和5年（2023年）に法的な位置付けが季節性インフルエンザと同等の「5類」に移行しました。真のポストコロナ時代、令和6年（2024年）の新年の幕開けを無事迎えることができ、「新春万福」の良い年になることを心よりお祈り申し上げます。

2023年を振り返りますと、3月に開催された World Baseball Classic (WBC) での侍ジャパンの戦いは多くの人に感動と勇気を与えたことと思います。そして何より親戦した人々の顔からマスク姿が消え、心からの笑顔を見て新型コロナの呪縛からやっと放たれ、正常な感情表現ができる日常が戻ってきたと実感いたしました。さて当センターの大きなイベントとしては2023年12月に病院機能評価(3rdG: Ver.3.0)を受審したことが挙げられます。この受審を通して私自身も「患者中心の医療とは何か」、「良質な医療とは何か」、そして「理念達成に向けた組織運営」、また、「ガバナンスとは何か」を学ばせていただきました。これからの病院運営に応用していきたいと思っています。

竜の水を得たるが如し

ご存知のように2024年は辰年です。個人的なことでは失礼いたしますが私は昭和39年辰年生まれの年男です。辰とは竜(龍)のことで十二支では唯一、空想上の生き物であり、竜にまつわる故事成語やことわざなどもたくさんあり、その中に「竜の水を得たるが如し」という故事成語があります。竜が水や雲、翼を得るように、持てる力を存分に発揮して、飛躍する1年にしていきたいと考えています。

2024年からは『医師の働き方改革』が始まります。長時間労働が常態化している医師の労働環境を改善することは医師自身の心身の健康を守るだけでなく、医療の質と患者の安全を保つ点で患者の皆さんにとりまして重要な問題です。医療崩壊を防ぎ、日本の医療を未来へ持続させるためにも改革を進めてまいります。しかし、医師の過重労働を前提とした医療を変えるには、患者さん一人一人のご理解とご協力が必要であると考えています。当センターの基本理念・方針には「倫理性および科学性に基づいた納得と安心感を与える最良の医療を提供します」とうたわれています。この基本方針に則り、内視鏡手術支援ロボット・Da Vinci Surgical Systemを用いた前立腺癌、消化器癌手術の開始、ハイブリッド手術室増設による経カテーテル治療を安全に患者の皆さんに提供することをお誓いいたします。2024年以降には医療DX（デジタルトランスフォーメーション）に十分配慮した電子カルテの更新など、今後の病院運営を左右するビッグイベントが目白押しです。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



ご挨拶 & 座右の銘

理事長
山下 静也



「新年明けましておめでとうございます」

2019年末から広まった新型コロナウイルス感染症も4年が経過し、昨年5月からはインフルエンザと同じ5類感染症の扱いとなり、海外からの旅行者も増えてやっど活気のある社会に戻りつつあります。最近も新型コロナウイルスの感染者は出ていますが、ワクチン接種の効果か、当初のような重症者は少なくなり、学会、講演会や懇親会も現地開催できるようになりました。一方、2022年2月に始まったウクライナ・ロシア戦争は未だに続いており、全世界への影響は甚大で、燃料費等の物価が世界中で高騰して生活が大変な状況になっています。更に、10月にはイスラエルとパレスチナの戦争が勃発し、全世界が不穏な空気になってしまっています。一方、明るい話題といえば、MLBの大谷翔平選手が二刀流で大活躍し、リーグMVPを満票で取ったこと、FAで名門のドジャースに移籍したこと、阪神タイガースのセリーグ優勝及び日本シリーズ制覇でしょうか。優勝パレード関西が大いに盛り上がりました。

当センターでは手術室は6室ありますが、満杯で新たな

ご挨拶 & 座右の銘

病院長・副理事長
松岡 哲也



「新年明けましておめでとうございます」

皆様には、健やかに新春をお迎えのことと存じます。旧年中は一方ならぬご厚情を賜り、心からお礼申し上げます。

昨年は、内外共に不安定な社会情勢にありましたが、そんな中、我々を良い意味で興奮させてくれたのは大谷翔平選手でした。彼の活躍によるWBCの優勝に始まって、大リーグでのホームランキングに満票でのMVPの獲得、ドジャースへの10年1015億円で移籍で幕閉じました。しかも、その契約金の90数パーセントを後払いOKとする太っ腹ぶりには驚かされました。

さて、コロナ禍の3年間にあっては、通常診療とコロナ診療を如何に両立させるかに腐心しましたが、皆様方の協力もあって何とか乗り越えることができました。昨年は、コロナ禍という長いトンネルを抜けて、まだまだ完全に安心はできませんが、アフターコロナに向けての第一歩を踏み出す年となりました。りんくう総合医療センターでは、泉州南部地域で唯一の高度急性期病院としての診療機能の充実を目指し、新たな医療技術の導入を行いました。一部の大学病院

常識は非常識

これまで、大阪大学やりんくう総合医療センターで基礎研究・臨床研究を続けてきましたが、常識と思われていることにはまはる疑問を持つことから始めています。善玉コレステロールと言われるHDLコレステロールは高いほど長寿で良いと言われてきたのですが、高過ぎても問題であることを世界に先駆けて提唱し、それが現在では世界の動脈硬化研究者の常識となっています。何事にも先入観にとらわれず、新鮮な気持ちで良く観察し、じっくり考えることが大切だと思います。

手術患者を受け入れづらい環境にあり、緊急手術症例も手術室が使用中で、他病院へ搬送せざるを得ないこともあり、その解消のため昨年度からハイブリッド手術室を増設中で、今年6月からの稼働を目指しています。また、昨年12月からダヴィンチを使ったロボット手術を導入し、特に前立腺癌等を中心により精緻な手術が可能となっています。大変喜ばしいことに、アメリカを代表するニュース週刊誌Newsweekが毎年発表する世界のベスト病院「World's Best Hospitals 2023」日本版にて当センターが選出されました。日本全国で大学病院を中心に200施設、大阪府内で14施設（大学病院4施設を含む）の1つとしてランクインしています。研修医も最近では全国から応募者が激増し、人気のある研修病院となってきました。新年を迎えて、本年4月から「医師の働き方改革」が法律で義務化され、医師の超過勤務時間を減らす対策を実行する必要があり、医師を更に充実させ、泉州地域住民の皆様を守る最後の砦としての役割を担っていきます。今後も皆様方のお力添えを何卒宜しくお願い申し上げます。

見義不為無勇也

(義を見てせざるは勇無きなり) 私は常から、論語にある「見義不為無勇也(義を見てせざるは勇無きなり)」を座右の銘とし、正しいと思ったことは勇気をもって成し遂げたいと思って行動してきたつもりです。歳は取りましたが、その初志を貫徹する所存です。ただし、無駄砲な勇気は傍迷惑であることも肝に銘じて、思慮分別をわきまえて何事にも前向きに取り組むたいと思っています。本年もご指導ご鞭撻を宜しくお願いします。

や特定機能病院でしか実施できない、難治性の血液がんに対して有効性が認められているCAR-T療法という細胞免疫療法の実施施設としての認可を取得しました。また、遅ればせながら昨年12月には、内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ(da Vinci)」を導入し、これまで他院へ紹介していた前立腺癌など、ダヴィンチ手術の有効性が確立した疾患の患者さんの治療を当院で完結することが可能になりました。加えて、現在手術室を一室増室中であり、ここにはハイブリッド手術装置を設置して、来年度6月には大動脈弁疾患や胸腹部大動脈疾患に対して、高齢者などのハイリスクの方でも施行可能な経カテーテル的の大動脈弁置換術や大動脈ステントグラフト内挿術が安全に施行可能な態勢が確保されます。

このように当センターは一層、地域の方々から高度先進医療を提供できる医療機関を目指します。また、地域医療支援病院として医療介護連携も推進して、住民の方々が生み慣れた街で安心して暮らせる体制作りにも精励する所存です。

